

もくじ

会計の国際化と簿記・会計教育…………… 1	ビジネス基礎の指導上のポイントと留意点…… 19
ICTを利用した反転授業「ビジネス基礎」…… 8	「本支店合併財務諸表の作成にあたって」…… 21
知識構成型ジグソー法を活用した授業展開…… 13	Q&A ネット社会を生きるためのやさしい著作権 第3回…………… 23
おおいだ発新!「@官兵衛(あっとかんべい)」 …………… 16	

2014年9月25日 印刷
2014年9月30日 発行
定価(本体200円+税)

©編修・発行

実教出版株式会社
代表者 戸塚 雄次

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>

知識構成型ジグソー法を活用した授業展開

～学習者の活動を中心とした授業づくり～

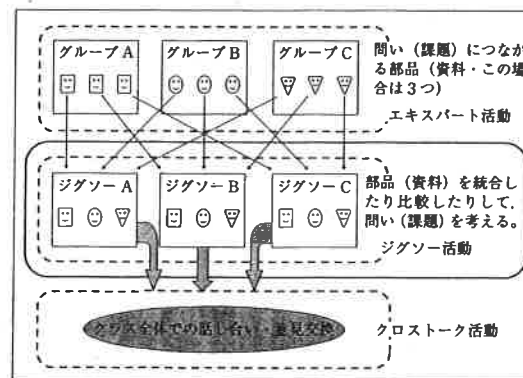
鳥取県立鳥取商業高等学校教諭 狩野 永治

1. はじめに

本校は、平成25年度に文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターから教育課程研究指定事業を受け、経済社会やビジネスの動向について理解を深め、主体的に学ぶ力とビジネス実践力の育成を目的とする知識構成型ジグソー法に関する指導方法の研究を進めた。言語活動の充実を図るため、ビジネス基礎において、グループでの学習活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を身に付けることが出来るよう、「知識構成型ジグソー法」の手法を用いて授業展開を行った。

2. 知識構成型ジグソー法とは

知識構成型ジグソー法とは、その授業のテーマについて、複数の異なる視点で書かれている資料をグループに分かれて読み込み、自分なりに納得できた範囲で他のグループに説明し、交換した知識を組み合わせることでテーマに対する理解を深め、テーマに関連する課題を解決する活動を通して学ぶ、協調的な学習方法のひとつである。



【知識構成型ジグソー法のイメージ図】

3. 知識構成型ジグソー法の学習活動の流れ

学習活動の流れは、①教員が学習内容に関する問い(課題)を設定する、②授業の柱となる問い(課題)の答えを出すための部品となる資料を準備する、③同じ資料を読み、学習するグループを作り、他のグループの人に説明する活動(エキスパート活動)に取り組む、④異なる資料を読み、学習した生徒を1人ずつ組み合わせ、新しいグループをつくり、担当した資料を互いに説明し合い、最初の問い(課題)に対する答えを出す活動(ジグソー活動)に取り組む、⑤資料をまとめて答えが出たら、クラス全体に発表し、互いの答えとその根拠を検討する活動に取り組む(クロストーク活動)という流れで展開する。

4. 授業の内容と具体的な学習活動

ここでは、平成25年12月に本校で実践した一例を紹介したい。科目は「ビジネス基礎」で、単元は「ビジネスの担い手 小売業者」、この時間のテーマは「コンビニエンスストアはなぜ成長が続いているのだろうか」とし、具体的には次のような流れで行った。

①エキスパート活動

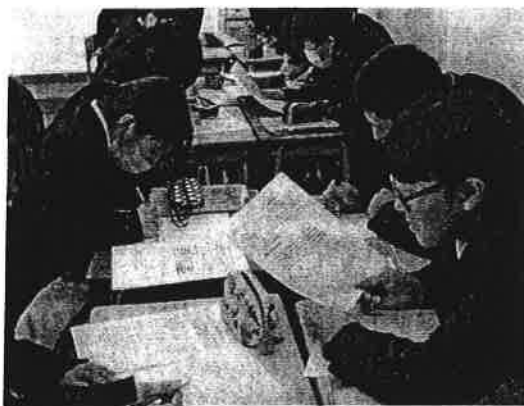
今回は次の3つの内容のエキスパート班に分け、それぞれの資料の内容の理解を深めさせた。

その内容として、エキスパートA班は、コンビニエンスストアの客層の変化、エキスパートB班は、さまざまな顧客ニーズへの対応、エキスパートC班は、コンビニエンスストアのサービスの多様化についてである。

エキスパート活動は、各エキスパート班が、授業の柱となる問い(課題)に答えを出すための資料の考察活動に取り組む、理解を深めさせる。

客層の変化の資料については、「客数に占める女

性の比率の推移」と「年齢別の1日1店舗当たりの平均客数の図表」から読み取れることをまとめさせる。顧客ニーズへの対応の資料については、「商品開発の事例」、「ニーズに対応した幅広い品ぞろえ」、「店内レイアウトの工夫」の事例を示し、顧客を取り込むための工夫や幅広い品ぞろえの内容についてまとめさせる。サービスの多様化の資料については、「食材等の宅配サービス」、「生活基盤としての機能の充実」の事例を示し、コンビニエンスストアが担っている役割についてまとめさせる。



【エキスパート活動の様子】

②ジグソー活動

エキスパートA班・エキスパートB班・エキスパートC班から、1人ずつ組み合わせさせて新しいグループ（ジグソー班）をつくり、それぞれの資料を見ながら、自分が担当した資料（学習内容）の内容を他のメンバーに説明する。お互いの説明を新たに加えることで、新たな発見や理解が深まり、分からない点もここで出てきたりする。ジグソー班でまとめた考えを、静電気や壁などに引っ付くシートにまとめ、クロストーク活動を行う準備をする。

③クロストーク活動

クロストーク活動では、ジグソー活動で見えてきたさまざまな「答え」をクラス全体で交流させ、各自がさまざまな「答え」の共通点や差異を考えることで、課題についての理解を深める。

5. 生徒へのアンケート調査

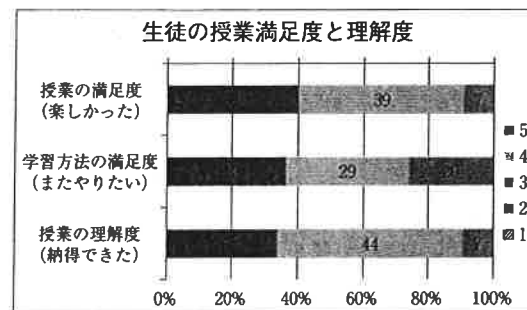
授業実施後、知識構成型ジグソー法を用いた授業について、授業の満足度（楽しかったか）および学習方法の満足度（またやってみないか）、授業理解度（自分で納得できたか）のアンケート調査を実施

した。肯定的な意見が大部分をしめ、90%近い生徒が授業内容を理解できたと答えている。

指導方法を工夫改善することで学習意欲が増し、定期考査や各種検定の合格状況からも、従来の講義形式の授業に比べ、理解度が上がっていることが分かった。

しかしながら、すべての授業にこれらの手法を用いて授業を展開することは難しいため、よりよい授業実践を行うためにはさらなる工夫が必要である。

学習を通して生徒からは、「人に説明することで、自分が担当した項目の理解が進む」、「自分の意見を持ち、それを相手に伝えることができるようになることは、将来あらゆる場面で生きてくると思う」、「授業に参加している実感が増した」、「物事に対して、どうしてそうなるのかを他の人と作り上げるのはおもしろい」、「人前で話すのでコミュニケーションの力が付くと思う」、「チームワークの大切さを感じた」、といった声が上がった。



【授業アンケートの結果】

※評価は「5」が高く、「1」が低いとした。

6. 評価規準の作成と評価方法

新しい指導方法が紹介されると、どのように評価するかという問題が出てくる。知識構成型ジグソー法の場合は、授業の柱となる課題が具体化されているので、まずは「その課題の答えを自分自身でまとめて表現できるようになったか（思考・判断・表現）」が評価のポイントになるであろう。

ジグソー活動では、自分しか知らない知識を話さなければならないため、普段はおとなしい生徒も発言をする機会が必ず生ずる。その後のクロストーク活動では各班の考えを、全体に発表する場面もある。生徒がすでに持っている知識や思考力を他者に表現することによって引き出すことができる点は、協同学習の優れた特徴のひとつであろう。

これらの特徴を持つ知識構成型ジグソー法を活用した授業は、新学習指導要領の観点別評価を用いることにより、生徒の学習活動をより適切かつ効果的、多面的に評価することができる。

本研究において、評価を行うにあたり、国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用し、評価規準の作成を行った。

関心・意欲・態度	コンビニエンスストアのビジネス活動について関心を持ち、その活動や動向について自ら意欲的に調べたり、まとめたりしようとする。
思考・判断・表現	コンビニエンスストアの動向を様々な角度から考察するとともに、動向の概要と変化をとらえ、説明しようとする。
技能	コンビニエンスストアに関する最新の動向を調べ、様々な資料を選択して活用することができる。
知識・理解	コンビニエンスストアについて、基礎的・基本的な知識を身に付け、その活動や動向について理解している。

【ジグソー法の授業の評価規準例】

ここで注意すべき点は、1時間の中で4つすべての評価規準を設定し、そのすべてを評価することは、評価すること自体が負担になり現実的ではないので、その時間の目標に照らし合わせ、生徒の学習状況を的確に評価できるような評価規準、評価方法を選ぶことが不可欠である。

7. 成果と課題

【成果】

新しい授業形態を取り入れることにより、生徒は従来の講義中心型の授業に比べ、授業への興味・関心がより高まり、意欲的に取り組む等の変容が見られた。

知識構成型ジグソー法の特徴は、「資料を読み取る」「記録・まとめる」「説明する」「聞く」「討論する」といった言語活動が含まれていることであり、

自分の考えをまとめ、表現する過程を通じ、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力、問題解決能力の向上を図ることができたと考えられる。

知識構成型ジグソー法の授業では、個々の生徒に役割が与えられるため、主体的・積極的に学習に参加する環境になり、グループ活動における言語活動が活性化した。

さらに、発表の際には、どのようにすれば相手に

分かりやすく伝えることができるか等、聞く側の立場を配慮した取り組みも見られた。

【課題】

知識構成型ジグソー法を活用した授業を行うにあたって、発問方法を精選するとともに、その授業の最後に求める答えの要素は何なのか、予め十分に検討しなければならない。

また、知識構成型ジグソー法は、発問の意図が十分に伝わらないと、生徒は考えにくくなり授業が進まない場合もあるので、入念な事前の検討が必要である。そのため、問いの設定や資料となる教材の作成に時間がかかるので、この点については工夫が必要である。



【クロストーク活動の発表の様子】

8. おわりに

知識構成型ジグソー法の授業をとおり、生徒一人ひとりが自分の考えをまとめ、論理的に表現することによって、他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら学びあう、言語活動によるいきいきとした授業展開を行うことができた。

しかし、知識構成型ジグソー法も万能ではない。どの単元で活用するのが効果的なのかを吟味することが必要である。そのためには、本時の問い（課題）に対する資料提示の方法や目標に対する評価方法は適切であるかなどを実践していく中で、工夫改善を行っていかなければならない。

今後は、指導方法の工夫だけでなく、評価の部分と学習の実現状況の把握についても研究を進めていきたい。教室内での学びに、より専門性を持たせ、地域経済やビジネスの動向について考察させるため、知識構成型ジグソー法を活用し、さらなる授業改善に取り組んでいきたいと考えている。